

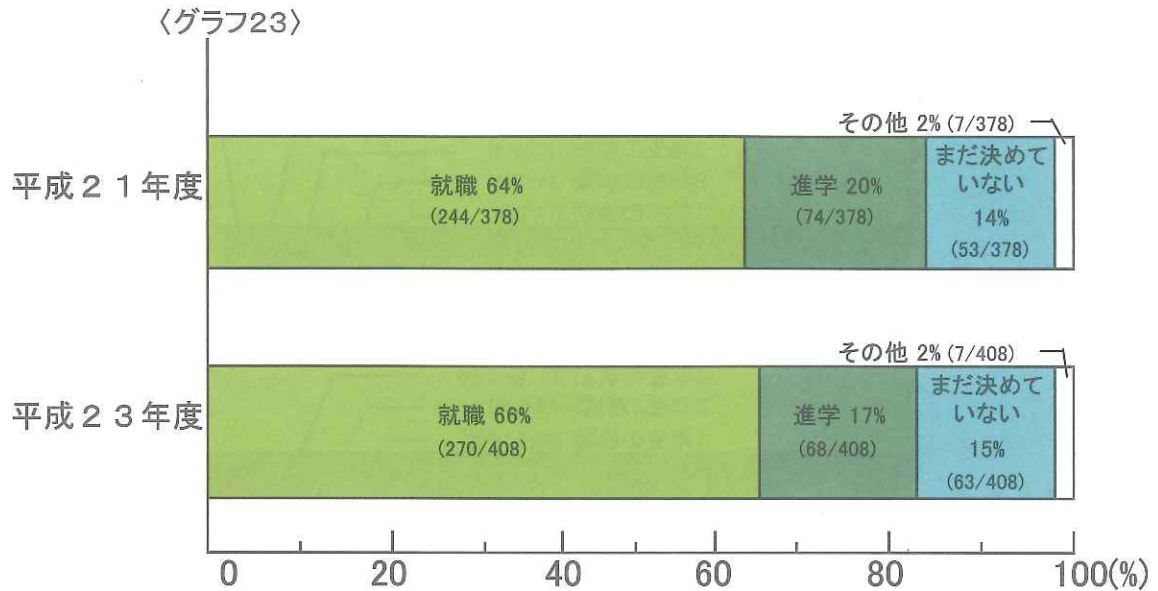
3. 就職

(1) 卒業後の進路

問23. あなたは卒業後の進路についてどのように考えていますか。

[1] 現状

今年度、「就職を希望する者」は66%、「進学を希望する者」は17%であり、前々回、前回とほぼ同じ割合となっている。しかし、「卒業後の進路を決めていない者」及び「その他」の合計は17%と、ここ数年の間では、最も多い(平成20年:12%→今年度:17%)。



(2) 就職を考え始めた時期

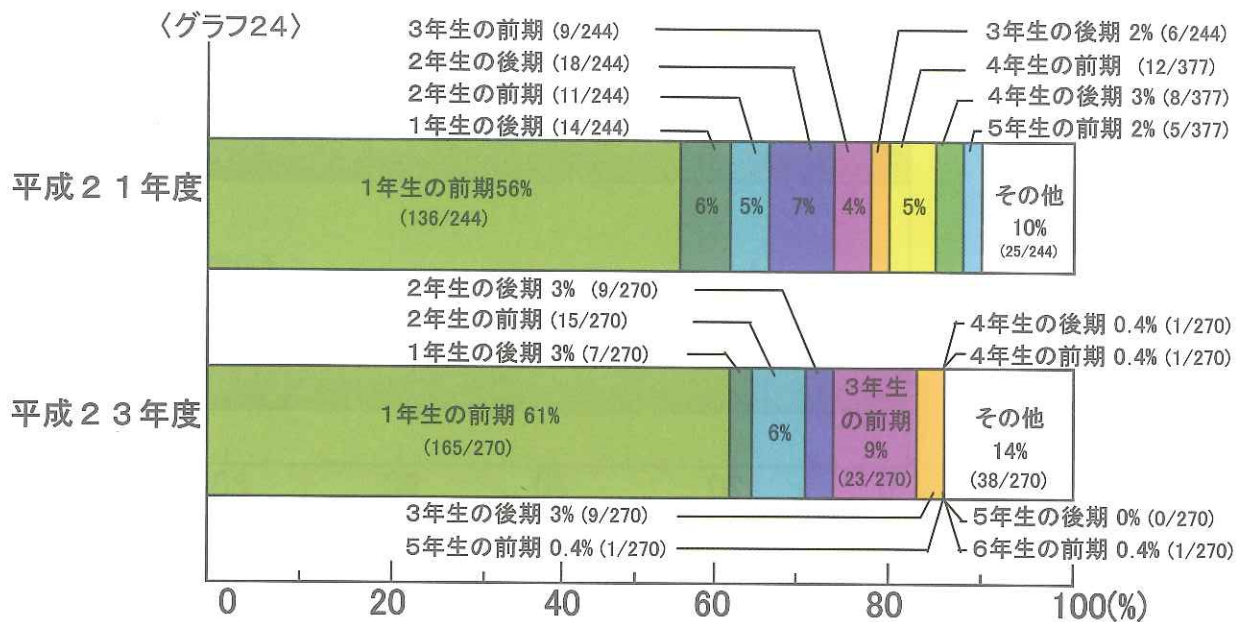
問24. 就職を考え始めたのはいつ頃ですか。

〔問23で「就職」と答えた人のみ回答してください〕

〔1〕現状

これまでとほぼ同様に、就職を考え始めた時期としては、1年前期と回答した者が、約6割を占め、最も多くなっている。次に就職を考え始めた時期として多いのは、3年前期である。これは専門科目履修が多くなり、また研究室配属を考える時期でもあるため、将来の進路について、より真剣に考える機会が増えたためと考えられる。

引き続き、様々な機会を捉えて、十分な情報提供を行ない、適切な進路指導を継続して行なう必要がある。



(3) 希望する分野

問25. 希望する分野は何ですか。次のうちから一つ選んで教えてください。

〔問23で「就職」と答えた人のみ回答してください〕

[1] 現状

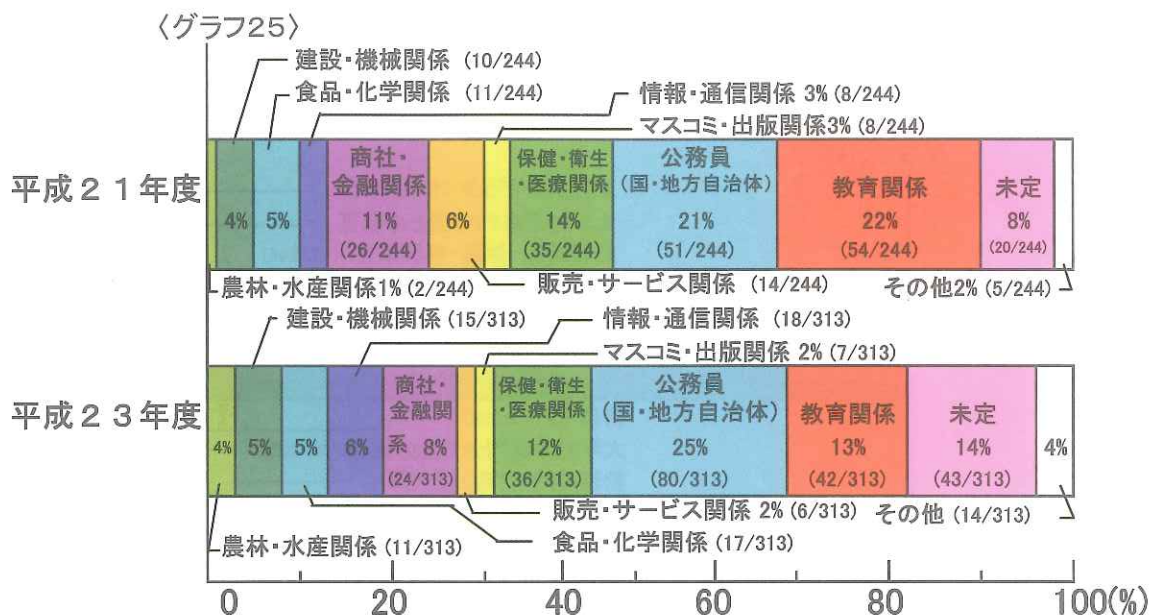
就職を希望する分野としては、これまでの傾向とほぼ同様で、公務員希望が多く、次いで教育関係、更に保険・衛生・医療関係となっている。

[2] 課題(問題点)

今年度は、例年に対して、希望する分野が決まっていない(未定)と回答した者の割合も多くなっている。

[3] 対応

引き続き、様々な機会を捉えて、進路指導を行なう。特に、職業についてイメージ的に考えている学生も多いため、主な職種の現状について、外部講師による就職関係の講演会等も含め、的確な情報提供を行なって行く必要がある。



(4) 職業選定で重視すること

問26. 職業を決めるに当たって重視することは何ですか。次のうちから一つ選んで教えてください。
〔問23で「就職」と答えた人のみ回答してください〕

〔1〕現状

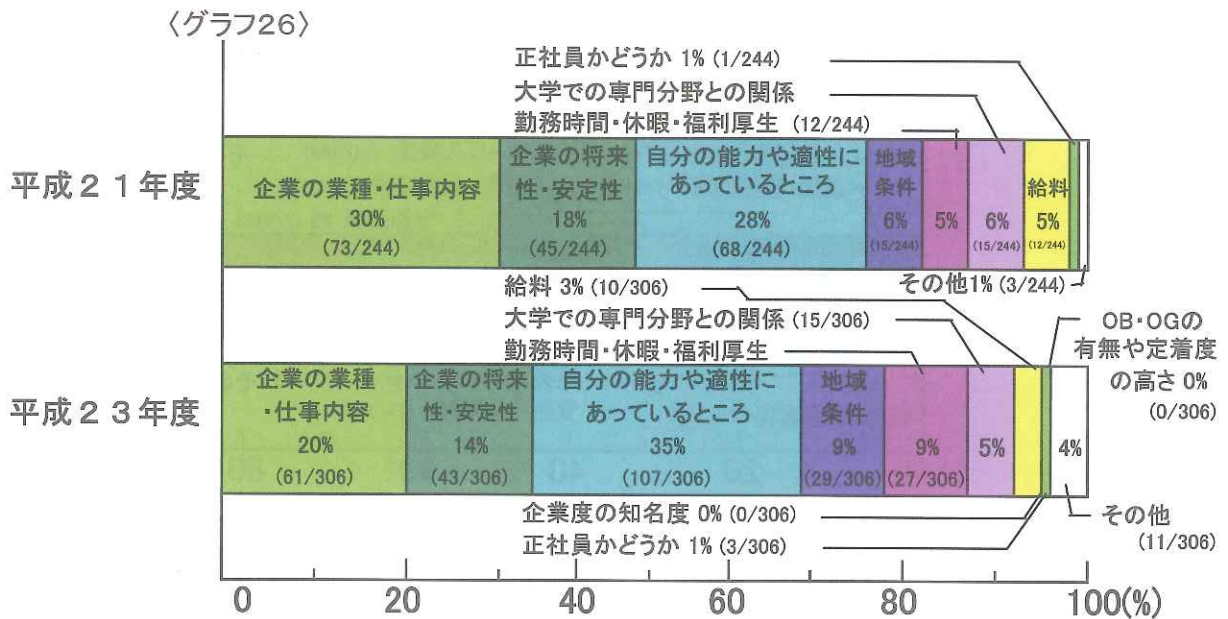
職業選定で重視することとして、①自分の能力や適正にあっているところと回答した者が最も多く、その割合も、例年に比べて増えている。次いで多いのは、②企業の業種・仕事内容、③企業の将来性・安定性であり、これら、3項目が、例年と同様に、主要な選定理由となっている。一方で、地域条件や勤務時間・休暇・福利厚生等、他の項目を挙げている学生の割合も多くなっており、企業でのワークライフバランス等の取り組みを受けて、学生の意識にも、多様化が始めている。

〔2〕課題(問題点)

自分の能力や適正にあっているところや企業の業種・仕事内容で選定する学生が多い中で、企業の求める適正・能力と合致しているかを、学生諸君が十分理解し、進路選定を行なっているかが、重要なポイントである。

〔3〕対応

就職適正試験(SPI等)等の模試を早い段階で受験させ、企業の求める適正・能力を意識させ自分の持ち味を活かした職業選定ができるよう引き続き進路指導を進めて行く必要がある。

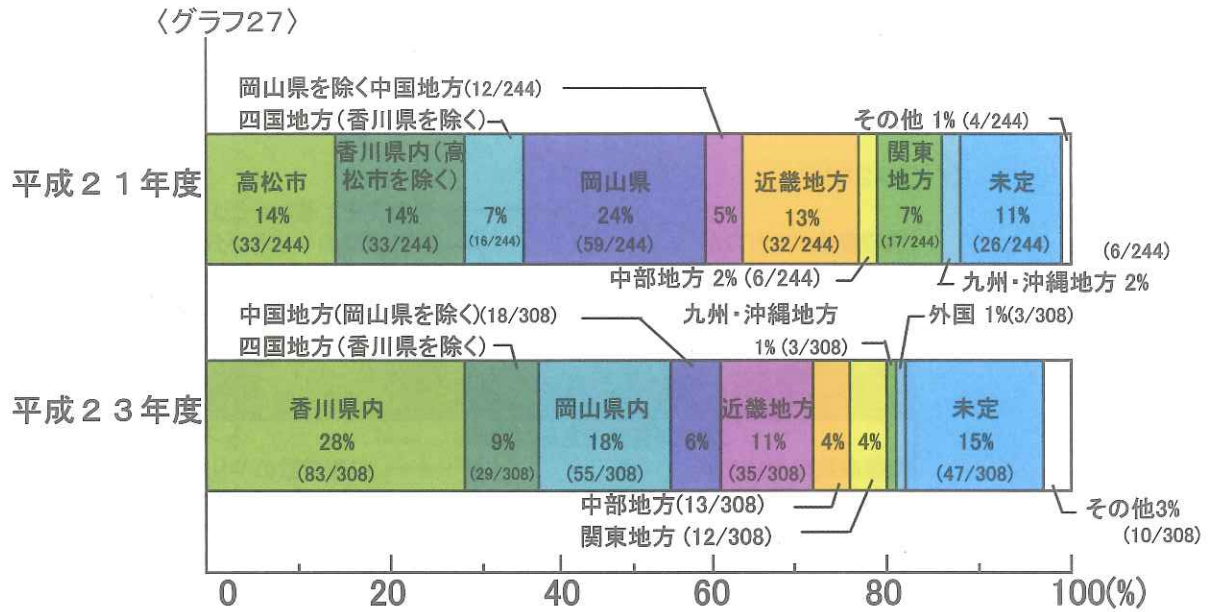


(5) 就職希望地域

問27. 就職先としてどの地域を希望しますか。次のうちから一つ選んで教えてください。
 [問23で「就職」と答えた人のみ回答してください]

[1] 現状

就職先の地域の希望としては、例年通り、香川県、岡山県を中心とする地元への就職を希望する学生が半数程度を占めている。その一方で、就職率の横ばい・低下も影響して、地域を限定しない学生の割合も、若干増えている傾向にある。



(6) 就職活動で不安なこと

問28. 就職活動に関して、不安に思っていることは何ですか。次のうちから一つ選んで教えてください。

〔問23で「就職」と答えた人のみ回答してください〕

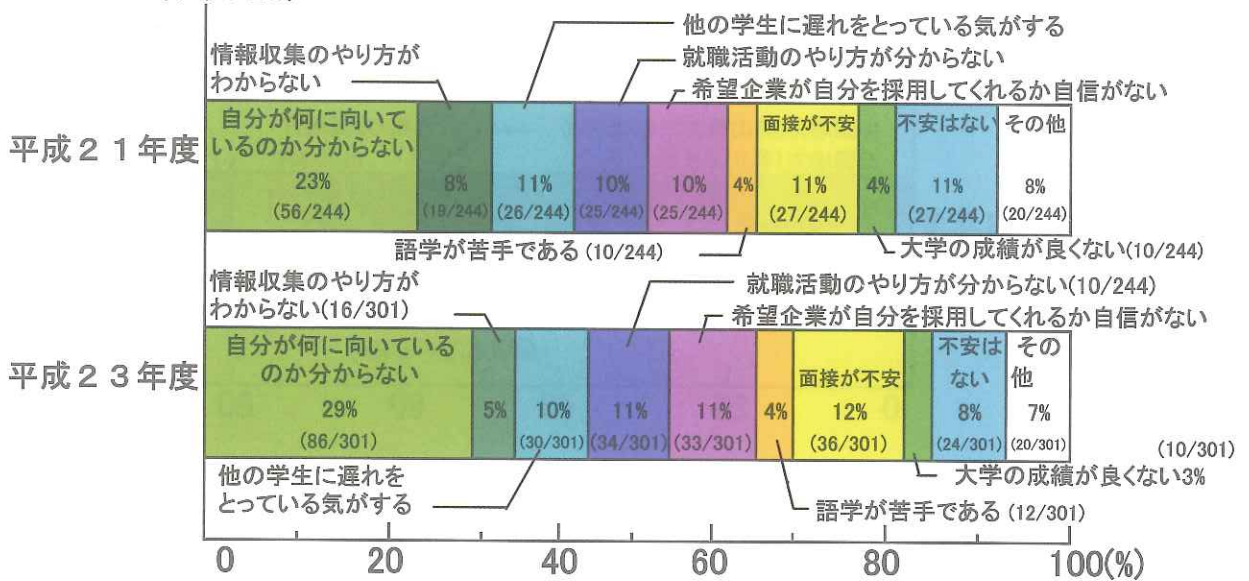
〔1〕現状

就職活動で不安に思っていることは、「自分が何に向いているのか分からない」が、最も多く、例年と同様である。また、「面接が不安」、「就職活動のやり方がわからない」、「他の学生に遅れを取っている気がする」が、ほぼ同一の割合（約10%）となっている。

〔2〕課題（問題点）

「面接が不安」、「就職活動のやり方がわからない」等の回答は、これまでと同等であるが、大学として、引き続き適切な指導を継続していく必要がある。

〈グラフ28〉



(7) 就職について相談した相手

問29. 就職について誰に相談しましたか。また、誰に相談するつもりですか。次のうちから一つ選んで教えてください。

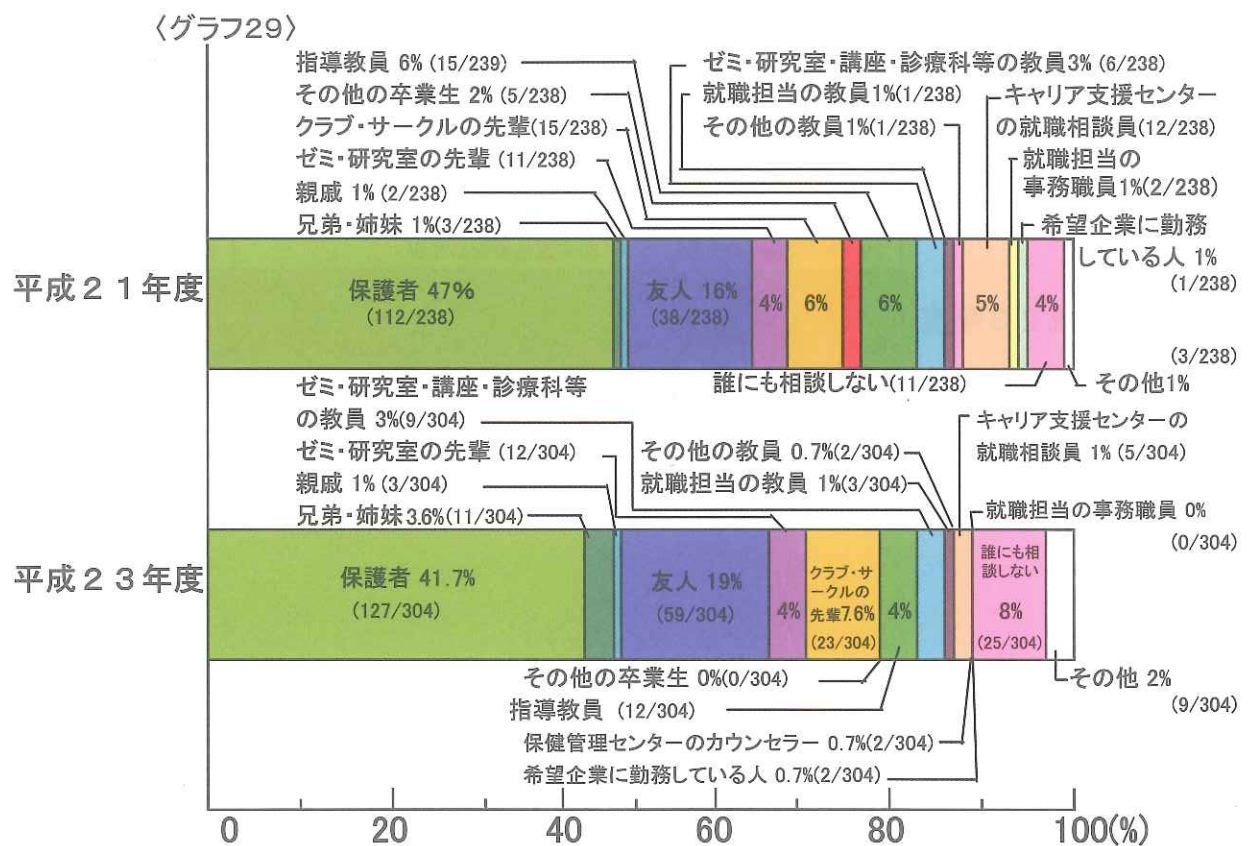
〔問23で「就職」と答えた人のみ回答してください〕

[1] 現状

就職について相談した相手は、これまでと同様に、保護者が最も多く、兄弟・親戚等の親族を含めると、ほぼ半数を占めている。次いで、就職について相談した相手として多いのは、友人やクラブ・サークルの先輩の順番である。

[2] 課題(問題点)

就職について相談しない学生は、これまで数年間の中では最も多く、やや増加している傾向にある。



(8) 就職に関する大学への要望

問30. 就職に関する大学への要望について、次のうちから一つ選んで答えてください。
 [問23で「就職」と答えた人のみ回答してください]

[1] 現状

就職に関する大学への要望としては、これまでの傾向と同様に「面接対策・履歴書・エントリーシートの書き方の実践指導の充実」、「ガイダンス、セミナー等の充実」と言った、就職に関するより実践的な指導の要望が上位を占めている。

文章の書き方や面接の口頭試問等は、就職活動の直前になってからの準備では、不十分であり、ガイダンス等の機会を捉えて、指導することを継続して進めて行く必要がある。

〈グラフ30〉

